

伝説の「ちぐさ」がやってくる

最高水準のオーディオで聴くジャズコレクション



9.13 土

開演 14:00

開場 13:30

ミズキーホール
4階音楽ルーム

横浜・野毛のジャズ喫茶「ちぐさ」の創業者、故 吉田衛が遺したレコードは約3500枚にのぼります。逸品の中からジャズの目利きたちが選んだレコードを聴いてみませんか？
世界に知られた音響メーカー、アキュフェーズの機材が臨場感たっぷりの音を届けます。
レコードにまつわる物語を元編集者が語ります。
現在、建て替え中の「ちぐさ」の貴重なレコードをお借りします。

ナビゲーター：三村 慎司（元スイングジャーナル副編集長）
定 員：80名（お申込み先着順）
申込み：5月25日(日)よりお電話またはミズキーホール窓口
（受付時間 9:00～20:30）電話 045-533-2360
参加費：1,000円（当日いただきます）
※未就学児不可 ※当日はグッズ販売もあります
主 催：横浜市港北区民文化センター ミズキーホール
協 力：アキュフェーズ株式会社
ミュージッククロニクルYokohama（ちぐさ保存会）
みどりアートパーク
横浜ジャズプロムナード実行委員会

【同時開催】追想のジャズ・ジャイアンツ展

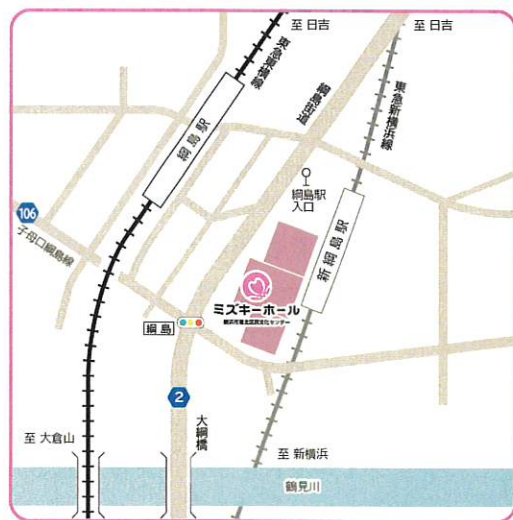
～スイングジャーナルに見るモダンジャズの軌跡（無料）

懐かしいスイングジャーナル誌の表紙&記事を大きなパネルにして展示します。

開催期間：9月2日(火)～9月8日(月) 10:00～20:00※
※最終日（8日）は17:00終了

会 場：ミズキーホール 4F ギャラリー

9月7日(日)14:00～ 展示解説（小針俊郎×三村慎司）



アクセス

東急東横線「網島駅」より徒歩3分
東急新横浜線「新網島駅」直結

横浜市港北区民文化センター

ミズキーホール

横浜市港北区網島東1-9-10 新網島スクエア4・5階
Tel 045-533-2360 休館日：毎月第3火曜日

JAZZ喫茶ちぐさ



1933年(昭和8年)、創業。

昭和初期の日本ジャズ黎明期にジャズ喫茶という日本独特の文化が始まった頃、20歳の青年・吉田 衛によって開業されました。横浜大空襲では店舗と6,000枚ものレコード(SP)を焼失してしまいましたが、兵役を終えて復員した吉田 衛は1947年に千数百枚のレコード(SP)を集め、ちぐさを再開したのです。

1950年代当時の給与の3, 4割したLPレコード。若き日の秋吉敏子、渡辺貞夫、日野皓正らは、横浜の米軍クラブで演奏するかたわら、「ちぐさ」でむさぼるように米国直輸入レコードでジャズを聴いて勉強したのです。店は吉田衛が他界した後も妹さんと常連客によって続けられました。現存する最古のジャズ喫茶とされています。

ただ現在は老朽化が進み建て替えの途上にあります。レコードや音響機器を劣化から守るため、ちぐさ保存会が「ミュージッククロニクルYokohama」(<https://mcy-yokohama.studio.site/>)を関内駅近くで運営し、レコードを聴くことができます。



三村 慎司 ナビゲーター

元スイングジャーナル副編集長。

国内外トップ・アーティストのインタビューから全国ジャズ・フェスの現地取材、音楽教育のレポートなど、幅広くジャズの世界に生きる人々を見つめてきた。

『ちぐさ』では秋吉敏子、五十嵐明要といったゆかりのレジェンドも取材。

現在は音楽ライターとして活動するほか、社会人バンド『ザ・ビッグバンド・オブ・ローグス』のサクソ奏者を務める。港北区綱島在住。



スイングジャーナル (Swing Journal)

戦後、日本のジャズ界をリードしてきた月刊音楽雑誌。1947年創刊、2010年休刊。

ジョン・コルトレーンが表紙を飾るなど約63年間にわたり海外や国内のジャズの動きを紹介した。

音楽家やレコードの評論、オーディオ機器に関する記事には定評があった。

